

認知症になっても

自分らしく暮らせる社会へ

誰もが一度は抱く「最期まで健康で自分らしく生きたい」という思い。しかし、認知症は誰にでも起こり得る脳の病気で、85歳以上では4人に1人がその症状にあるといわれています。人ごとではないと分かっているにも、「夫はしっかりしているから」、「まだ若いから大丈夫」。と安心してしまいがちな「認知症」について、一緒に考え、地域でできることを見つけてみませんか。

認知症を知る

認知症を取り巻くさまざまな問題に向き合うために、まずは認知症とという病について理解しましょう。

認知症は脳の病気です

「脳の病気です」と強調する理由は、これまでマイナスイメージを持たれてきた病気だからです。最近では、認知症関連の情報が多くのメディアに取り上げられるようになり、関心が高まっています。しかし、その情報に混乱したり不安になったりすることもあります。

認知症は、さまざまな疾患からなり、症状も一人一人違うことが特徴です。原因は、性格や職業、家族要因や地域性など、その方が生きてきた歴史が症状として現れるためです。



認知症は誰でもなり得る病気です。そのため、認知症を正しく理解し、世代を超えた協力が必要になります。

3万7,800人余りが若年性認知症であると推定されています。

認知症は、高齢者に特化した病気ではありません。元気な働き盛りの成人でもなる病気です。

認知症を考える

認知症になっても、住み慣れたまちで安心して暮らすことができるよう、医療や介護、福祉の支援だけでなく、地域全体で認知症の方やその家族を温かく見守り、支える取り組みが必要です。そのための市の試みを紹介します。

気づく

世界アルツハイマーデー

世界保健機関(WHO)が、毎年9月21日を世界アルツハイマーデーとして制定しています。

市は、平成24年度から認知症理解のためのイベントを実施しています。参加者からは、「現在認知症ではないが今後の生き方の指針になった」との気づきの意見が寄せられています。

今年度の内容について、詳しくは、「情報なびお知らせ情報」33ページをご覧ください。



参加者以外にも声かけが

つなぐ

地域との協働

認知症の方について、「高齢者が徘徊している」「介護する家族が大変だ」との相談が増えています。また、一人暮らしの高齢者では、認知症の発見が遅れる傾向があります。

このような現状から、今市地区社会福祉協議会と市が共催で、平成24年11月10日に「認知症声かけ模擬訓練」を実施しました。

模擬訓練では、街中にある認知症に扮したモデルを探しだし、どのように声をかけるか、訓練をします。このような取り組みは、県内初の実みです。当日は、参加者以外の方からも温かい声かけがされていました。

つなげる

認知症サポーター

認知症サポーターとは、子どもから大人まで誰もがなれるもので、認知症の方やその家族を見守る応援者のことをいいます。

養成講座を受講するとサポーターになることができ、受講者からは「人ごとではないと思った」「自分の対応が間違っていたと分かった」などの声寄せられています。

市の受講者の8割は60歳以上であり、若い世代へのアプローチが必要と考えています。子どもの頃から認知症を知ることや思いやりを育み、地域全体で認知症の方や家族を支えることができます。世代を超えてつながる地域づくりのために、養成講座を受講しましょう。



認知症サポーターの証「オレンジリング」

キーワード① 徘徊行方不明者1万人

家を出て徘徊したまま所在が分からなくなる認知症の高齢者は、毎年約1万人にも上ります。

県内では、平成25年度に「徘徊行方不明」として警察で受理した数は、135人でした。

キーワード② 全国の認知症高齢者 860万人

厚生労働省によると、国内の認知症の高齢者は462万人(平成24年3月31日時点)で、高齢者全体の15%に達すると推計されています。

また、認知症の予備軍とされる「軽度認知障害MCI※」の高齢者は

400万人に上ると推計され、国内の認知症とその予備軍の高齢者は合わせて860万人余り、85歳以上の高齢者の4人に1人の上っています。 ※MCI(Mild Cognitive Impairment)：軽度認知障害とは、認知症の最も軽い段階で、厳密に言えば、健常者と認知症の人の中間の段階(グレーゾーン)にあたる症状のことをいいます。

キーワード③ 若年性認知症

65歳未満で発症する認知症のことを、若年性認知症といいます。「若年性」というと、せいぜい50代くらいまでの年齢層が発症するのではないかと思われませんが、40代で発症することもあります。

発症のピークは男女ともに50代です。厚生労働省によると、日本では

おわりに

今後も認知症は増加していくことが予測されます。市はさまざまなサポートに取り組んでいますが、それと同時に、市民の皆さんの協力が不可欠です。

認知症になっても安心して暮らせるまちは、一人一人が「大切な人が認知症になったら」「自分が認知症になったら」を想定し、人生計画を立てることから始まると考えています。疑問点など、お気軽にご相談ください。

くわしくは

市地域包括支援センター

藤原・栗山地域包括支援センター

日光・足尾地域包括支援センター

今市東地域包括支援センター

今市南地域包括支援センター

高齢福祉課 高齢福祉係

24時間対応フリーダイヤル

☎0120(277)226